まことに褒美の大きさは、試練の大きさによるものである。至高のアッラーは、ある民を愛する時、彼らを試練におかけになる。それに満足する者には満足があり、それを憎悪する者には憎悪があるのだ。

アナス・ブン・マーリク（彼にアッラーのご満悦あれ）が預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から伝えるところによれば、彼はこう言った：「まことに褒美の大きさは、試練の大きさによるものである。至高のアッラーは、ある民を愛する時、彼らを試練におかけになる。それに満足する者には満足があり、それを憎悪
する者には憎悪があるのだ。」
[真正] [イブン・マージャの伝承 - アッ＝ティルミズィーの伝承]

このハディースの中で預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は、以下のことを伝えている：信仰者は、生命や財産などにおいて災難に出遭うが、それに忍耐すればアッラーは褒美を授けてくれること。災難が大きければ大きいほど、その危険度が高ければ高いほど、アッラーからの褒美も大きくなること。災難は信仰者に対するアッラーの愛の表れであり、アッラーの定めは必ず実現すること。そしてそれに忍耐し、満足して受け入れるのであれば、アッラーはそれゆえにその者に褒美を授け、満足されること。しかしアッラーの定めを嫌うのであれば、アッラーはそれゆえにその者をお嫌いになり、罰でもって報われるということ。

http://sunnah.global/hadeeth/ja/show/3339